

「こころの一新」

～何が良い事か？生きることが礼拝～

ローマ12：1～2

ローマ書1～8章【教理】、9～11章【イスラエルの救い】、12～16章【適用】。ローマ書は聖書全体を事細かに示し、その中でも12章はまとめのとても大事な部分です。新改訳、新共同訳、口語訳、NKJV訳、原語からも見ていきましょう。パウロはいつも教理に基づく適用を大切にしています。知識を蓄えるだけでなく、「いかに実践するか」です。実践する上で要になる基礎がこのローマ書12章1節、2節です。これを正確に理解しなければ、ローマ書7章に出てくる「頑張るクリスチャン（苦しむチャン）」になってしまいます。

■ そういうわけで

1～11章まで遡り、次の内容すべてをふまえての「そういうわけで」です。【1～8章（教理）】①義認…義人はひとりもない。私達は罪びとのかかしですが、救われたことを信じた時、神様との関係が回復し、赦された罪びととなり無罪放免となりました。②聖化…「本来のあるべき姿に近づく」本来の姿に聖霊が導いて下さるから私達は心を開いて聖霊を受け入れるのです。頑張らないのです。「クリスチャンなのだから頑張る」というのは違います。7章のようなクリスチャンは違います。③栄化…キリストに似た人格になっていく。義認を頂いたら、主キリスト・イエスにある神の愛からもう引き離すものはなにもありません。（ローマ8:37～39）圧倒的な勝利者なのです。【9～11章（イスラエルの救い）】①ユダヤ人はイエスを拒否した。②しかし、それは神の計画であった。③異邦人に救いが及んだ。④異邦人の救いを妬むことで、ユダヤ人が救われる。（私達は祝福されなければいけない。祝福されることは計画のうちである。）

■ 勧告

あなたがたに、「お願いします。勧めます。」＝「beseech」とも強い懇願です。原語から、私達のそば（耳元）に来て勧めて励まして下さる方、その聖霊、助け主が呼ぶ、勧めるのです。パウロを通して聖霊様ご自身が懇願されていると受け取ることができます。騒がず感情的にならず、耳元でささやかれる聖霊様の良心の声を聴きましょう。何によって勧告されているのかは、「神のあわれみによって」＝1～11章の内容そのものです。信仰によって恵みによって義とされました。私達は神の子として、全ての特権と祝福が与えられています。聖霊様が内住しています。神様に感謝の応答をすることができます。

■ 勧告の内容

あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい（神に present する）。旧約は自発的ではない動物達を死なせて捧げ物としていました。しかし、新約に生きる私達は、いのちの犠牲はなく、自らが捧げものであり、自発的な供え物であります。私達は罪の奴隷ではなく、キリストの奴隷です。生涯、愛する主人に仕えたい、という自発的な奴隷です。聖書に見る奴隷は、主人に代々仕える爺やのように、導く者と仕える者との、どちらかという助け合いの価値観です。（申命記 15:16～17）嫌々殺される動物のように足をつっぱらず、嫌々ではなくイエス様が好きだから「喜んで、進んで」捧げましょう。アベルのように神の為に選び分けた供え物を捧げるとき、神に受け入れられます。神は物ではなく、心を見られます。「自発的ないけにえ」が「霊的ないけにえ」です。それこそ、あなたがたのなすべき霊的な礼拝（reasonable service）です。「なすべき霊的な」は、感情ではなく理性で決断する、と原語から読み取れます。その為に教理を理解する必要があります。礼拝＝奉仕・仕える（service）。キリストにあって行う全ての行動、つまり「生活の全て」が礼拝であり、全的献身なのです。それを良心（reasonable）によって判断することができます。「良心」とは、永遠の（神様の）総

合判断力です。神様と共に、本来の姿を客観的に見て知る状態です。良心の中心は聖書です。みことばを覚えましょう。

■ 否定形の命令形

この世と調子を合わせてはいけません。「この世」（時代）とは、「型」（こうじゃなきやだめ）にはめようとするものです。例えば、携帯電話、権利の主張、今の子育てなど、何らかの影響を与えようとするものです。聖書とは違う「この世」（時代）の要素を、しっかりと分かっているでしょうか？当たり前と知っていることは、本当に正しいことでしょうか？神様は私達に「地の塩、世の光として生きなさい。」と言われていました。塩は、そのままの性質を失わずに溶け込みます。「この世」（時代）に溶け込むが、同意せず、型にはまらず、その場所で光輝く姿でもって、人々の心に届く光で本来の型に戻る道を示しなさい、と言われていました。

■ 受動態の命令形

いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。（心を新たに自分で変えていただく、心を新たにすることによって造りかえられる。）主語は神であり、私達はそれを受け入れ（受動態）、私達がすべきことは全的献身（喜んで捧げる、仕える）なのです。当たり前とズレているこの世の時代を悔い改め、一新し、あなたが神に変えられることを受け入れましょう。「互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いと一っしょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」（コロ3:9～10）脱ぐのはあなた、着せてくださるのは神様です。

■ 本当の良心を知る・時代から、型から自由に！！
ポストモダンから自由に・最初に戻る
それは神との愛の関係

この世の土台の上に神様を置くのではなく、神様の土台の上にこの世を置きましょう。このポストモダンの時代に、イエスキリストが土台でなければ、崩れてしまいます。近代モダンが終わった次の現代ポストモダンの時代は、高度な資本主義社会と高度な情報化社会で、そのような社会における、先行き不透明な現状と、その現状の中で社会等に失望を抱く状況です。家庭という理想、国家という理想も壊れています。元の姿に戻る方法は、神様と一っしょにいるということ、つまり礼拝です。あなたは、すべての場所、すべての領域、すべての場面に、神様がいらっしゃるのでしょうか。いつも賛美しているのでしょうか。神様はいのちなので、生きていつもあなたと共におられます。あなたと良心（神の心）を共有しようとしておられます。問題や嫌いな人や病の前にも、神を感じ、イエスキリストを置いて礼拝を捧げてください。

さいごに

義認によって、私達は救われました。この救いは永遠です。しかし、全的献身で得られる祝福は別です。この祝福は、この1,2節の勧め（具体的には12章以降）を実行しなければ、得ることはできません。この祝福を得ることはイエス様が懇願されていることです。生活や価値観を見つめ直し神様によって変えられることを受け入れていきましょう。罪の奴隷から、キリストの奴隷へと変えられていくとき、栄光から栄光へと変えられていくことができます。

（要約者：高橋 奈津江）

（2019年10月27日）